

第2回 伊達市農業振興基本計画策定委員会 議事要旨

開催日時	令和5年9月11日（月）15時00分～16時48分	
開催場所	伊達市役所本庁舎東棟 3階 庁議室	
委員	出席	荒井委員長、五十嵐委員、今村委員、大山委員、大和田委員、岡崎委員、菅野(栄)委員、菅野(照)委員、菅野(與)委員、三瓶委員、引地委員、丸山委員、渡邊委員
	欠席	佐藤委員
市出席者	谷口産業部長、半田農政課長、長谷川農政企画係長、佐久間農業担い手係長、太田農業振興係長、加藤主査	
協議事項	伊達市農業振興基本計画（素案）について	
会議資料	資料 伊達市農業振興基本計画（素案）	

発言等	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会 荒井委員長 事務局	司会進行：半田課長 1 開会 本日の欠席者について、報告 2 議事（進行：荒井委員長） （１）伊達市農業振興基本計画（素案）について事務局から説明を求める。 （第１回伊達市農業振興基本計画策定委員会の振り返り） ・本計画の策定方針と策定スケジュール、骨子の説明 ・各委員から発言いただいた要点 ・伊達市は全国的に見て、一戸あたりの経営面積が小さく今後の進め方が課題 ・耕作放棄地を再生・保全活動しているが、後継者がいない ・耕作放棄地の対策が必要 ・新規就農者支援として、ベテラン農家のサポート体制がある ・販売価格のアップ、収入増が重要 ・GAPによる差別化 ・生産コストダウンが課題 ・農業者の所得アップを目指す ・認定農業者制度の見直し ・若い世代の農業に触れ合う機会が少ない ・農家の儲かるイメージ発信が必要 ・設備投資がネック、農業機械のリースが必要 ・地域でいかに魅力あるものを作るかが大切 ・都市部の方が興味を示すような施策 などのご意見を踏まえ素案を作成 伊達市農業振興基本計画（素案）の説明 P 1 市長メッセージ内で本計画の理念を盛り込んでいる ①経営基盤の拡大 ②スマート農業による省力化 ③企業参入を掲げている。 P 2 計画の構成を説明 P 5 計画の策定背景を説明 P 9～ 農業を取り巻く国内の状況を説明 P 12～ 農業を取り巻く本市の状況のうち今回追加した部分のみ説明

荒井委員長	P22～ 「目指す姿」に関し事務局で絞り切れなかったことから、委員からの意見を頂戴したい。 案1 誇れる農業 繋ごう未来へ 案2 創ろう誇れる農業 地域とともに そして未来へ 案3 だてな農業 夢あり 技あり 誇りあり P25～ 施策体系並びに施策の考え方を説明 主な取組であり、細かい事業までは掲載していない P41 推進体制を説明 P23 「目指す姿」について、委員会としての方向性を固めたいと考えている。 「誇り」というキーワードになっているため、必ず入れるようになるか。
事務局	素案を作るにあたって、伊達市には様々な強みがあり、農業を実施するには適した場所である。 農業をやっている方にとって、農業の誇り、市民にとっては田園都市であることの誇りがあり、庁内で「誇り」をキーワードにすべきとの声があった。 しかし、庁内では決めきれないため、本委員会で意見を出していただきたい。
菅野照委員	・ 「未来へつなごう」のような文言がよい。 ・ P31 基本方針2にある農道整備は多面的機能支払制度で既に実施しており、市道を整備すべき。田園風景が綺麗とは言えない。市道法面の整備も行ってほしい。 ・ 多面的機能支払制度の限界もあるため、市の支援もお願いしたい。
菅野栄寿委員	・ 目指す姿は、案2「創ろう誇れる農業 地域とともに そして未来へ」が良い。 ・ P15「②充実した就農サポート支援」について、JAでも実施しており、行政と連携しながら、真っさらな方でも就農できるようにしたい。 ・ 「地産地消」、「農業体験」は大事。JAでは桃の収穫体験、ぶどう、あんぼ工房でのあんぼ柿作り体験を実施。子供の頃の記憶は大切である。

大和田委員	・ 案2「創ろう誇れる農業 地域とともに そして未来へ」でよい。 ・ P20 農業産出額の推移で、畜産が61億7千万円、果実61億6千万円で、それぞれ1/3ずつを占めている。畜産の内訳はどうなっているのか鶏卵か伊達鶏か、乳業か。 ・ また、農業産出額には企業分も数値に入っているのか。
事務局	・ 産出額の詳細までは載っていないが、伊達鶏と鶏卵かと推測。 ・ 産出額には企業分も含まれている。
大和田委員	・ 統計は非常に参考になる。遊休農地を畜産に活用する方法もある。
荒井委員長	・ 畜産と果実の割合が高いのも伊達市の特徴ではないか。
引地委員	・ 前回出された意見が反映されており、特に意見はない。 ・ D A T E Cとして、地産地消に取り組み、若手就農者が頑張っている。子供に農業をPRできる場もあり、基本方針5に取り組んでいる。 ・ 1つ頑張ると色々なことにつながるため、D A T E Cとしては「繋がる」をキーワードに使用してほしい。
丸山委員	・ 現状から方針が整理されている。具体的な数値目標が設定されていくこととなるだろう。 ・ 目指す姿は、案1「誇れる農業 繋ごう未来へ」で良い。 ・ P19 耕作放棄地の面積は、平成22年に減少したものの、27年度には増加に転じている。要因は何か。
事務局	・ 要因はデータからは不明だが、農林業センサスは聞き取り調査となることから、対象者の認識の違いから誤差もあるかと考えられる。
今村委員	・ 平成23年の東日本大震災も影響しているのではないかと。
事務局	・ 農林業センサスにおいて、令和2年から「耕作放棄地」という定義が無くなり、現在は「遊休農地」と変更となった。 ・ 当項目は意向調査でもあるため、耕地の捉え方が所有者ごとに異なり数値にも表れてくるのではないかと。また、東日本大震災の影響も一因であると考えられる。

荒井委員長	・ 遊休農地は伊達市だけが増えているだけではなく、全国的に増加傾向にある。
今村委員	・ 目指す姿は、案２「創ろう誇れる農業 地域とともに そして未来へ」が良い。 ・ 今年は高温の影響で廃棄する農作物が多く、廃棄が出ない方法がないものか。規格外の野菜など、自由に提供できる取組があっても良い。 ・ 遊休農地の草刈りを委託し作業をしてもらったとき、これまで自分でやっていた草刈には価値があった実感。 ・ 市道の法面も地域で管理していたが、高齢化が進み地域に若者がいなく今後の対応が厳しくなっている。
岡崎委員	・ 目指す姿は、案２「創ろう誇れる農業 地域とともに そして未来へ」が良い。 ・ 案にはないが「未来へつなごう 地域とともに 美しい自然と農業を」というフレーズを考えてみた。 ・ P38にある農福連携とはシルバー人材の事なのか。
事務局	・ 農福連携とは、障がい者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組である。
岡崎委員	・ 学校給食センターや病院なども本市産の農産物を利用しているのか。大量調理は大変で人件費もかかる。野菜を何度も洗って提供しないとイケないため、輸入食品を活用するようになり、味が落ちることもある。 ・ 地産地消を推進する施策も必要。 ・ 労働最低賃金も上がっていることから、人出が欲しいが、賃金を払ってまで農業をすることが負担になる方もいる。
三瓶委員	・ 目指す姿は、案２「創ろう誇れる農業 地域とともに そして未来へ」が良い。 ・ P21 販売経営体別の販売額 1,000 万円以上が思ったより少ないことから、目標販売額としては 1,000 万円以上となるだろう。 ・ 販売額が 50 万円では生活できない。色々な支援が必要である。
菅野與志昭委員	・ 今年は桃が好調で、市等のPRの成果も出てきている。一方、価格は低迷しているのが不思議である。

	・ 使う方が選べる補助メニューを検討されたい。 ・ 市内でも農業がやりづらくなっている地域がある。特に伊達地区は住宅団地造成や大型商業施設の誘致などにより、極端に農地が少なくなっている。併せて、農業従事者も少なくなっているため、農業をやれる地域で農地整備する必要がある。 ・ P41「施策の推進体制」に農商工連携の掲載がない。6次産業化の勉強会など、本計画の中に盛り込んであることから、商工会も記入して欲しい。 ・ 市で行う農産物PRの際に、生産者も同行できれば勉強になる。 ・ 畜産が1位であるが計画の整合性に疑問が残る。
大和田委員	・ 畜産は農業であり農業従事者としていいのではないか。
事務局	・ どういう出し方が良いか相談させてもらい、次回までに畜産の取り扱いについて説明する。
五十嵐委員	・ P40 施策5「②食育・食農教育の推進」ポツ3 なぜ、地場産物を推進するのか。「(地場産の農作物は)おいしく、栄養があり体に良い。環境問題にも貢献できるため推進している」旨を追記してほしい。 ・ 学校給食に携わっており、地場産に限らず野菜類は下処理に時間がかかる。1次加工だけでもしてもらえると現場はすごく使いやすい。加工所などの整備も効果的な施策となるのではないか。 ・ 文化庁で100年フードの認定という事業がある。100年続いたもの、いわゆる未来へつなげたい伊達市産の名産物を登録することもブランド化につながるのではないか。 ・ 目指す姿は、案1「誇れる農業 繋ごう未来へ」で良い。
大山委員	・ 農産物直売所こらんしょ市場を運営しており、大型スーパーにはない生産者の顔が見える地元農産物を販売したい。 ・ こらんしょ市場には、フードボックスがあり、売れ残り品や規格外野菜などを回収し、こども食堂の食材として提供している。 ・ 先日、あぶQウォーク（阿武隈急行線沿線自治体イベント）で当直売所がゴール地点となった。県外の参加者もおり、当直売所を知ってもらえる良い機会になった。異業種とのコラボイベントはとても良かった。

渡邊委員	・ 目指す姿は、「だてな農業 夢あり 技あり 誇りあり」が良い。 ・ 目指す姿のキーワードとして、「繋ごう」という文言がある。持続というのはSDG s の観点もある。 ・ このことから、目指す姿は、 案1「誇れる農業 繋ごう未来へ」 案2「創ろう誇れる農業 地域とともに そして未来へ」が妥当と考える。 ・ P31「②ほ場整備の推進」に関し、伊達市はあまり進んでいない状況。ほ場整備には、スマート農業の活用がキーとなる。 ・ P34「施策3－2競争力のある産地づくり」は、桃などを海外に輸出するなど、もう少し先を見据えてほしい。
事務局	・ 委員の皆様のご意見を踏まえると、目指す姿の方向性は、概ね一致していたと思う。文言を整理させてもらう。 ・ また、ご意見を踏まえ、9年後に向けて農業政策をいかに進めていくべきか改めて整理したい。 ・ 庁内でも意見があったが、既存事業の列記ではないかとの意見があった。既存のものを革新的に変えることは難しいが、手の届かないところに支援が行き渡るように変えていきたい。基本的には今回提示した方向性で調整を進めたい。
荒井委員長	・ P23の目指す姿は、案2が「創ろう誇れる農業 地域とともに そして未来へ」が数的には多い。 ・ 「誇れる」、「一緒に創る」という文言が入っている。P41に関係者の役割がある。市町村レベルでここまで明記しているのは少なく本計画の最大の特徴と言える。みんなで農業の将来を作っていくというのを表すべき。 ・ ほ場整備から集落営農につなげる。新しいトレンドで何を強調していくべきか。国の法の進捗を踏まえ最終調整が必要。 ・ 農業政策は5年10年で変わることから、整合性を精査してほしい。
引地委員	・ 素案には委員の意向はほぼ組み込まれていると思う。 ・ 岡崎委員から障がい者の雇用が地域とつながるのかとのご意見もあった。我が家では、毎年障がい者を雇用しているが、交流しているという実感はない。 ・ P39の農業の新たな担い手の部分では、障がい者の方や30～50

事務局	代の未婚の方など、担い手の片腕になりえる。 3 その他 ○事務連絡 ・ 11 月にパブリックコメントを実施するが、その前に本委員会へ伊達市農業振興基本計画（案）を提示したいことから、パブリックコメント前に委員会を開催したい。これにより、委員会開催数は当初の 3 回から 4 回とする。なお、第 3 回の詳細は決まり次第通知する。 4 閉 会 <16 時 48 分>
-----	--